

## 城南五山

5月24日（火） 晴れ

- ★ 初参加の中島克三さん、数年ぶりに参加の杉中雅子さん、最近不参加が続いた女性陣など 12名が集まって賑やかな例会となった。
- ★ 午後1時20分頃目黒駅で下車。東口を出て山手線沿いに五反田方面へ向かう「花房山通り」を進む。道はゆるやかな下り坂で、左手の崖の上が城南五山のひとつ花房山である。旧播磨国三日月藩森家の上屋敷があった場所であるが、今は高級マンションが立ち並んでいる。坂道の途中に、かつて三日月藩の上屋敷があったことを書いた説明板が立っているだけである。



花房山通りの標識

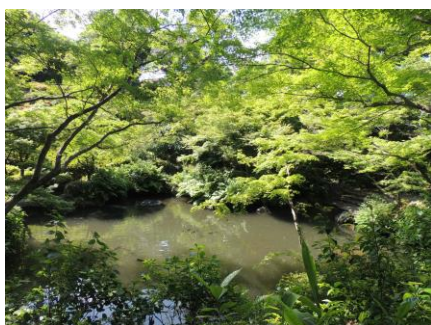


花房山通りの坂を下る



旧三日月藩上屋敷についての説明板

- ★ 坂道を下りきると外苑西通りと交差する。頭上には首都高速2号・目黒線が走っている。この交差点を左折して、外苑西通りを都心方面へ向かう。ゆるやかな登り坂を10分ほど歩くとインドネシア大使館があり、その先を右折して住宅街に入る。この一帯が池田山であり、岡山藩・池田家の下屋敷があった所である。池田山公園は池田山の北端部斜面の崖から灌水を利用した大きな池のある庭園があったと見られる一部分で、品川区が庭園を保存すべく土地を取得して池泉回遊式の庭園として、1985年に開園したものである。池を中心に石橋、船着、四阿などがあり、都心とは思えない濃い緑に包まれている。正に都心のオアシスである。



池田山公園の池



四阿と見晴らしデッキ



池田山公園内で

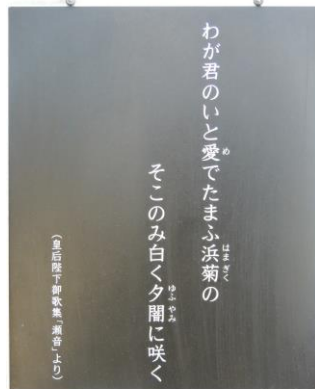
- ★ 池田山公園を後にして5分ほど歩くと「ねむの木の庭」という小さな庭園がある。ここは美智子上皇后の実家・正田家の邸宅があった所である。美智子妃の父・正田英三郎氏がなくなったあと相続税の一部として物納され、2002年に建物は解体された。その後品川区が国から公園用地として跡地を取得し、2004年に開園した。名前の由来は美智子上皇后が高校時代に自身で作った詩「ねむの木の子守歌」に因んだものである。庭園の中央にはねむの木があり、



周囲には季節の花が植えられている。その側には美智子上皇后の歌集「瀬音」の中から選ばれた和歌が書かれたプレートが立っている。プリンセスミチコという薔薇が咲いていた。この春の最後の一輪だそうである。



ねむの木



フタをめくるとこの木の解説があります  
美智子上皇后の和歌



プリンセスミチコ

- ★ ねむの木の庭からだらだらとした坂を下ると間もなく国道 1 号・桜田通りに出る。右に行けば五反田駅であるが、我々は左へ進み、間もなく雉子神社に着いた。室町時代に創建されたと伝わる歴史ある神社である。徳川家光が鷹狩に来たとき、一羽の白雉が社地に飛び入ったのを稀なめでたい験として、家光が「以後雉子の宮」と称すべし」との言葉があり、「雉子ノ宮」と改称したという。現在社殿はビルの 1 階部分にあり、道路からは鳥居しか見えない。



雉子神社の鳥居



雉子神社の本殿



旧島津公爵邸（現清泉女子大学本部）

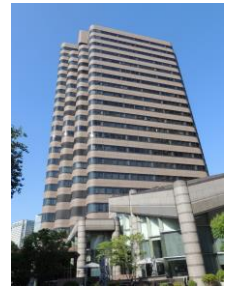
- ★ 国道 1 号の東南側一帯を島津山という。仙台藩伊達家の下屋敷を明治期に島津家が引継ぎ「島津公爵邸」としたことが由来となっている。旧島津公爵邸は大正 6 年（1917）に建築されたイタリア・ルネッサンス洋式の洋館で、鹿鳴館やニコライ堂を手掛けたイギリス人建築家ジョサイア・コンドルの設計によるものである。現在は清泉女子大学の本部として利用されている。通常は非公開で、春と秋に学生ガイドが案内する見学ツアーが行われるという。我々も校門の外から中を伺うことしか出来なかった。時間は 3 時半頃で、下校する女子学生で賑わっていた。

- ★ 清泉女子大学正門前の坂を 200m ほど下ると山手通りである。左折して山手通りを 600m ほど進むと左手に立派な門が現れた。その先の道路に沿って 2 m ほどの高さに積まれた石垣の奥は鬱蒼とした森である。ここは三菱グループの倶楽部として利用されている開東閣である。明治 22 年（1889）、岩崎久弥が伊藤博文の邸宅があったこの地を買い取り、明治 33 年（1900）に岩崎弥之助が譲り受け、洋館を建築した。設計はジョサイア・コンドルである。



開東閣の正門

★ 開東閣の向かいが御殿山である。徳川の歴代将軍が鷹狩の折に休憩した「品川御殿」があったのが名前の由来である。昔は東京湾を見下ろすことのできる海沿いの高台で、吉宗の時代には多くの花見客が訪れる桜の名所として知られていた。現在は「御殿山トラストシティー」として、マリオットホテルや多くのオフィスが入る 21 階建てのトラストタワーやマンションなどの施設が出来ている。

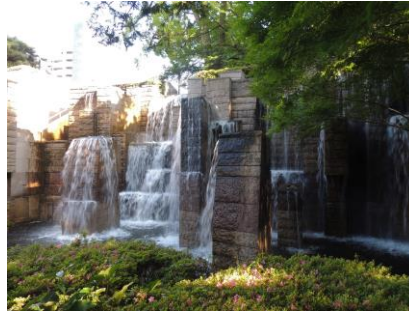


御殿山トラストタワー

★ 御殿山トラストシティーの中にある自然豊かな散歩コースが「御殿山庭園」である。四季折々の表情を見せる木陰の散策路、豊かな水をたたえる池や滝など、魅力あふれる都会の庭園である。散策路歩いているとき、木陰を渡るそよ風が殊の外気持ち良かった。庭園のすぐ横を東海道、横須賀、山手、京浜東北線などの電車が走っている。庭園を抜けると山手通りと国道 15 号の合流する新八ツ山橋で、そこから開東閣の石垣に沿って品川駅方面に向かうと、旧東海道と JR 線の交差する八ツ山橋である。



庭園の散策路



滝



7人の侍?

★ 品川駅に着いたのは午後 4 時頃であった。コロナのため飲食店に対して要請されていた人数制限や時間制限などが解除されたので、久しぶりに居酒屋で大いに飲み、食い、かつ談笑した。

今回は 4 人の俳人から俳句を頂きました。

あぢさゝりや下校筆やぐ女学生

一抱へ程のつくばひ薄暑光

薫風やビルの囲ひぬ雄神社

鯉に餌やるべからずの御触書

透き通る「ねむの木の庭」の看板

春深し御殿山にて籠に乗り



志賀 勉



桑田 青三

万緑の都会オアシス池田山

木蓐をむさぼり食べし幼き日

泰山木空に向かいて白き花



水野 博司

大鯉の列の抜けゐる若葉かな

桑の実の一つばかりの甘さかな

合歡の木のいのちの蕾風薫る



滑志田流牧

写真と文 小島恕雄

参加者 桑田制三、小島恕雄夫妻、志賀 勉、杉中雅子、中島克三、滑志田隆、  
水野 聰夫妻、水野博司 白井静江、中村仁美 以上 12 名

